

スマホに使われないようご用心！

以下はスマホを使わ（え）ない少々ひねくれた年寄りの感想と主張です。

つい先ごろ、信州大学学長の発言が話題になり、賛否両論の意見がマスコミを賑わせました。学長が入学式のあいさつで「スマホやめますか？それとも大学辞めますか？」と学生に問い糺したというのです。

報道された記事によれば、学長の真意は“大学は学問をするところである。スマホのような情報に流されていないで、自分の頭で考える学生になってもらいたい”といったところにあったようです。これに対して「スマホは情報収集に不可欠。コミュニケーションにも有用の道具である。学生もスマホの活用で能率的な勉強もできる」といった反論もありました。

私自身は「よくぞ言ってくれた！」と拍手を送りたい衝動にかられたものです。電車内やホームで多くの人が、ときには7人掛けの座席の乗客全員が同じような姿勢と仕草でスマホをいじっているのが異様な光景として映るのです。

同じ情報が世界同時に行き交っている。ひょんなことから悪意に情報が操作されて人間の集団が、窮地に陥ったネズミが絶壁から海に飛び込むように人類の破滅につながるのだろうか、グリム童話のハメルーンの笛吹き男に連れ去られていった子供たちのようにならないだろうか、といった心配さえも出てくるのです。荒唐無稽な杞憂であればよいのですが……

そこにまたショッキングなニュースが入ってきました。「ガラケーの生産が2017年以降に中止される」。誰が名付けたのか「ガラケー」とは「ガラパゴスの携帯」の略だとは恐れ入ったものです。実はかつて特派員だったとき、私はエクアドル訪問の際、赤道記念碑（国名の「エクアドル」とはスペイン語で「赤道」のこと）とガラパゴス諸島を訪れたことがありました。数十もある島に生息する古生代からの動物たちが島によって進化が異なることからダーウィンが進化論を唱えた、といった経過がある。携帯も日本独自で進化したこと「ガラケー」と名付けられたようです。

そのガラケーさえも私はあまり携帯せず、待ち合わせとか緊急な交信のために携帯するだけで、関係者には“自分は携帯電話を持っていない”ことで通しています。メールも携帯からはしません。パソコンでは10本の指を使って文字を打ち込んでいる。それを“たった1本の指しか使えない携帯なんて、そんな不能率なことは……”といった思いからなのです。

それに仕事を離れたときくらい、誰からも侵入されたり邪魔されることなく自分の世界に浸っていたい。歩いているときくらい景色を楽しむかボーっとしていたい、といった気持があるからです。パソコンに送っておいてもらうか自宅の固定電話にメッセージを残してもらうことでもよいのではないかと。要は器械に支配されない、縛られない生活を望んでいるのです。

片時もスマホを手放さ（せ）ない人を見ると、まさに信州大学の学長が言った「自分の頭で考える時間」が大切だと思うし、「マイペースで流れる時間も必要なのではないか」とも思う次第です。アナログ人間の食わず嫌いかもしれませんが……。

